



一目黒区と気仙沼、心はひとつ

文：香川えり子 気仙沼写真提供：梅津 寛太郎さん



陸上に打ち上げられたサンマ漁船

タイトルのさんまのモチーフの作成者は「関気会」のみなさんです。

「関気会」・・・

関東在住の気仙沼出身の方々の同年会。



被災したサンマ漁船

開催は決まったものの、例年にはない問題をいくつも抱えたスタートでした。まず、さんまを水揚げできるかどうか？東京までの輸送に必要な設備が準備できるか？という大きな問題がありました。また大切な仲間が犠牲になるという悲しいことも起こりました。次々と立ちはたかる問題乗り越えるために多くの人が手をかり合いました。その結果、ボランティアにも多くの人が集まってきたのです。

しかし、関係者の方々は違いました。今年もやる！その決断の背景には「復興に向けたひとつの象徴になれば」という想いがありました。私はその熱い想いと決意に心を打たれ、ぜひ取材してみたいと思ったのです。

3月11日、東日本大震災によって気仙沼は大きな被害を受けました。私は、テレビで何度も映される押し寄せる津波や火事の映像に、衝撃を受けました。連日流された映像は今でもはっきりと脳裏に焼き付いています。

そんな気仙沼が目黒区と友好都市であると聞いたのは震災から少し経った頃でした。二つの都市がさんまを通して深い絆で結ばれていることを知り、ふと毎年行われるさんままつりを思い出しました。同時に今年はどうなるのだろう、と気になりました。率直に言っておまつりをやるような状況ではないと思いました。